

「小保方さんなんてかわいいほうですよ」

世紀の大発見のはずが一転、論文不正やねつ造の報道によってかわられ、世間を驚かせた STAP 細胞をめぐる騒動。

しかし、バイオの研究者たちの実感はというと、「もっと真っ黒な人たちがいる」というものだった――。

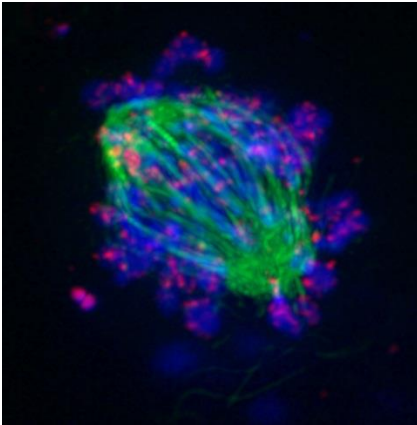
科学ジャーナリスト賞受賞の著者が、STAP 細胞騒動の背景を解き明かす

榎木英介 『嘘と絶望の生命科学』

iPS 細胞の発見にはじまり、再生医療や難病の治療、食糧危機や絶滅した生物の復活まで様々な応用可能性が期待され、成長産業の柱として多くの予算を投入されるバイオ。しかし、生命現象の未知の可能性と崇高な目的が謳われるその裏で、バイオ研究を取り巻く環境は過酷さを増している。若手研究者たちの奴隷のような労働実態、未熟で自己流の研究者が多数生み出されるブラック大学院のブラック研究室、続発する研究不正……。

STAP 細胞騒動の背景には何があったのか。一連の騒動によってあぶりだされた知られざるバイオ研究の虚構の実態を、かつて生命研究の一端に身を置いた科学ジャーナリスト賞受賞の病理医が、あらゆる角度から徹底検証。バイオの未来を取り戻すための提言を多数盛り込んだ決定版の 1 冊です。

7 月 20 日発売 800 円+税 文春新書



著者プロフィール：榎木英介（えのき・えいすけ）1971 年、神奈川生まれ。病理専門医、細胞診専門医。95 年東京大学理学部生物学科動物学専攻卒。同大学院博士課程中退後、神戸大学医学部医学科に学士編入学。2004 年医師免許取得。06 年博士（医学）。09 年神戸大学医学部附属病院特定助教。現在、近畿大学医学部病理学教室医学部講師。病理医として勤務する傍ら、科学技術政策のウォッチを続ける。著書に『医者ムラの真実』、『博士漂流時代』（科学ジャーナリスト賞 2011 受賞）など。

ご取材などのお問い合わせは、文春新書編集部 鳥嶋七実までご連絡ください

TEL:03-3288-6154/ FAX:03-3239-0874 torishima@bunshun.co.jp